

日能研 オン・ザ・ロード 2018 を開催いたしました

首都圏最大規模の「中学入試問題の意味とこれからの学習のつながりを考える」研究会、「オン・ザ・ロード 2018」を開催いたしました。今回は3月6日（火）文京シビックホールでの会の様子についてご紹介します。

「中学受験への道」「高等教育への道」「未来への道」。子どもたちは、様々な道の途中にいます。

これから先、子どもたちが歩いていくであろう未来は、私たち大人が予測できない道です。未知なる未来に向かっていく子どもたちに、「自ら歩み続けていく人」「自ら学び続けていく人」になってほしい――

「オン・ザ・ロード」という言葉には、そんな成長をつくっていく子どもたちとともに歩んでいきたい、という日能研の想いをこめています。会は、「首都圏入試情報」「キーノートスピーチ」「インタビュービデオ上映」「入試問題を素材としたパネルディスカッション」「中学入試ドキュメンタリービデオ上映」の順に進めていきました。

◆ キーノートスピーチ ◆

「人生100年」時代、昨今では2007年に生まれた子ども達の2人に1人が107歳まで生きると言われています。そのような未来が到来すれば、従来の「教育の25年・仕事の35年」という人生のモデルケースは、今の子ども達すべてにあてはまるものではなくっていき、人生がより多様なものになると考えられます。

そのような未来へ向けて、子ども達が自分で価値をつくり、豊かな人生にしていくためにはどうすればいいのかというこの大きなテーマについて会場のみなさまと共有しました。

人生そのものを親が子どもに手渡すことはできませんが、その土台・環境を子ども達のためにつくっていくことはできます。建学の理念に基づく私学には、じっくりと自分を見つめ、自由に個性を磨くことのできる豊かな学びがあります。ブレることのないその学びには、いつの時代でも「私」が育っていける豊かさがあります。

◆ パネルディスカッション ◆

パネルディスカッションでは、「私学の想いがこめられた入試問題」をテーマに、今年の入試問題の印象・入試問題にこめられた私学からのメッセージ・大切にしたい今後の学び方についてお話ししました。

「自分の学んできた知識と問題の手がかりをどう結び付けて考えるのか」「問題から情報を読み取り、その場で考える」「身の回りで起きていることを相手の立場に立って自分ごととしてとらえる」「作業を通して、問題を解くための情報を増やしていく」など、入試問題と出会うときに使っていきたいチカラについて、様々な切り口から、4科目で話をしていきました。そして最後に、今後の学び方として、「何を求められているのか意識する」「世の中とのつながりに関心を持つ」「自分で手を動かして頭を使い、自分で考える」「自分で自分自身に問いかけていく」ことの大切さを、会場のみなさまにお伝えしました。

オン・ザ・ロード。日能研はこれからも「子どもの真ん中」にして、保護者の方とともに合格、そしてその先の進学をつくっていきたくと考えます。